

平成30年度「学校運営協議会の設置・拡充に向けた調査研究事業」まとめ【概要版】

教育委員会名	南魚沼市
研究課題	学校運営協議会を核とした特別支援学校と地域住民との連携・協働による共生社会づくり
研究のねらい	誰もが同等に参加・参画し力を合わせて未来を目指す共生社会は、地域住民がその価値観を共有し、それぞれが主体的に取り組むことにより実現する。そこで、コミュニティ・スクールを導入し、市立特別支援学校の教育活動・イベントに、地元地域住民を巻き込み、それぞれの主体的な協力を得ながら、地元全体の取組として実施する。これにより子どもの教育の充実を図るとともに、地元地域の障害についての理解の促進や、支え合うやさしい地域の雰囲気向上に結びつけ、共生社会づくりに寄与・貢献する。
研究の概要	<p>&lt;協議会の設置&gt;          下記10名を委員とする「文部科学省委託コミュニティ・スクール研究協議会(兼学校運営協議会)」(以下、CS研究協議会)を設置した。7回の会議、委員らの実践的関与を通し、地域の連携協働体制の構築と子どもの伸長を念頭にいた地域の活性化に結びつく互恵的な教育活動・イベント(以下、プログラム)を企画、実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 岩井康則 職業訓練施設サンティック 事務局長</li> <li>○ 大津鈴代 南魚沼市立総合支援学校後援会</li> <li>○ 勝又沙智子 南魚沼市女子力観光プロモーションチーム 代表</li> <li>○ 星野栄子 南魚沼市家庭教育支援チームだんぼの部屋 代表</li> <li>○ 小林昌子 NPO法人愛南魚沼みらい塾 代表理事</li> <li>○ 上村 睦 南魚沼市立総合支援学校PTA 会長</li> <li>○ 笛木 隆 南魚沼市教育委員会学校教育課 管理指導主事</li> <li>○ 森田隆行 南魚沼市教育委員会学校教育課 指導主事</li> <li>○ 横尾 浩 南魚沼市立総合支援学校 校長</li> </ul> <p>&lt;実施プログラム&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● MSG フェスタ…特別支援学校が主体になって地元の企業・事業所と共に行う、地域の芸能、商工観光の活性化もねらった共生社会づくりのフェスティバル</li> <li>● MSG カフェ…市内公共施設、商業施設、電車内等で、地元企業・事業所と連携して行う特別支援学校の出張カフェスタンド</li> <li>● MSG 放課後活動クラブ…地元地域住民の力で実施する障害がある児童生徒及び成人の放課後スポーツ・文化活動(アート、スポーツ、音楽)</li> <li>● 共生社会づくりに向けた研修会(12回)…市内小中学校、保育園・こども園、関係機関職員を対象として行う特別支援教育に関する基礎的研修講座、一般市民を対象として行う障害者の理解啓発の研修講座、市内企業・事業所の代表者を対象として行う特別支援学校卒業生の就労に関する研修講座</li> <li>● 市民と協働の防災イベント…市内の障害者を対象とした避難訓練を主としたイベント</li> <li>● 不登校中学生を対象としたスタディールーム…地元地域の不登校の中学生を地域住民の力で支える取組。利用する生徒には地域住民とともに特別支援学校の教育活動にボランティアで参加してもらい特別支援学校の取組に貢献させるとともに、自己有用感の向上につなげる。</li> <li>● コミュニティ・スクール卒業式…地域住民の力を活用した卒業式</li> <li>● MSG 放課後活動クラブ推進リーフレット、成果公表リーフレットの作成と配布</li> </ul> <p>※ 「MSG」とは、南魚沼(M)総合支援(S)学校(G)を意味する。</p>

	<p>&lt;総括&gt;  CS 運営協議会委員が会議での議論だけでなく、以下に挙げたように主体的に学校や策定プログラムに関わった。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 学校を頻繁に訪れ、プログラム以外の教育活動等への協力や支援、学校職員との軽微な打合せを数多く行った。</li> <li>② 自身の有する個人的なインフォーマルな人的ネットワークを活用し、プログラムへの参加・協力を呼びかけた。</li> <li>③ 策定したプログラムに自ら実践者として関わった。</li> <li>④ SNS 等で発信するなどにより、地域住民にプログラムの様子や活動の成果を紹介した。</li> </ol> <p>これらにより、学校に広く地域住民が訪れるようになった。その結果、学校が共生社会づくりのセンター的な場所となり、関係する様々な地域団体が学校を会場に打合せをするようになった。</p> <p>以上のように、地域住民の主体的な参画が図られ、その結果、独創的なアイデアによる教育活動・イベントが実現した。実現した教育活動・イベントは、従来、障害者等に全く関心のなかった地域住民が興味を示すこととなった。このことが障害のある子どもと接する地域住民の増加につながった。</p> <p>実施したプログラムのうち「MSGカフェ」や「MSGフェスタ」は地域全体の取組になった。また、地域住民主体のクラブ活動はメディアを通して県内特別支援学校の放課後活動のあり方に一石を投じるものとなった。</p> <p>以上のように、総じて障害のある子供と地域住民が共に活動する機会が増加したことで、地域の障害理解が高まり、支え合うやさしい地域の雰囲気さがさらに高まった。コミュニティ・スクールの導入により、学校が地域住民と同じ目標やその具体的イメージを共有できるように変化した。</p> <p>&lt;プログラムごとの成果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● MSG フェスタ  12月15日(土)、南魚沼市民会館で、地元地域住民の協力を、企画から運営に至るまで数多く得て実施した。ステージには、障害のない子どもを含む地域住民が、支援学校児童生徒と共に出演した。共生社会づくりに向けた講演会も実施し、参加全員で学んだ。来場者は延べ約2,500人</li> <li>● MSG カフェ  図書館、官公庁、ホテル、福祉施設、各種イベントなどで34回を実施した。地域住民の利用者数延べ3,577名</li> <li>● MSG 放課後活動クラブ  80回を実施した。地域住民の参加者数は、スポーツ大会・展覧会・演奏会への来場者を含め延べ約9,500名</li> <li>● 共生社会づくりに向けた研修会  12回を開催した。12回合計の参加者数は852名</li> <li>● 市民と協働の防災イベント  9月8日 「防災キャンプ」の名称開催。参加地域住民は39名</li> <li>● 不登校中学生を対象としたスタディールーム  利用した生徒の元気になるなどの成果があった。</li> <li>● コミュニティ・スクール卒業式  3月20日 保護者や関係者などに加え、授業や交流に協力してきた地域住民で児童生徒の卒業を祝った。本事業の成果を共有する場となった。</li> </ul> <p>&lt;数値的目標の達成状況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 新聞やテレビ、ラジオによる取組についての報道回数(目標数値50回)  28回(新聞報道6回、ラジオ番組での紹介22回)</li> <li>● 取組やイベントへの地域住民の参加者(目標数値延べ6,000人以上)  約延べ16,000人(MSGフェスタ約2,500、MSGカフェ3,577、MSG放課後活動クラブ約9,500、研修会約852、防災イベント39)</li> <li>● 他団体と協働したCSの取組数(期間内目標数値3以上)  10(スポーツ団体、市民マーケット等と協働した)</li> <li>● 学校への視察・見学(目標数値20回以上)  23回(市内障害者・福祉団体、企業・事業所、国際団体等、転入学のための体験等は除く)</li> <li>● 高等部卒業生の一般企業への就労率の向上(目標数値40%以上)  37.5%</li> </ul>
<p>研究の成果</p> <p>本件  問い合わせ先</p>	<p>南魚沼市教育委員会学校教育課  025-773-6700</p>